



2月28日、在日ロシア大使館での日ロ交流協会創立60周年記念パーティーに参加しました安部と申します。

大使館の中に入ったことのない私にとって、当日は見るもの全てが新鮮でした。建物のドアを開けると、

日本人女性の平均身長はあろうかという巨大なチェブラーシカ人形がお出迎えし来場者の期待感を高めます。階段を上がると、そこに広がっているのはシャンデリアが輝く大広間。ロシア大使館の専属シェフが腕によりをかけて準備してくださったロシア料理の数々が、美しく色とりどりに、食べきれないほど並んでいます。来場者は一同、その美しい光景に目を輝かせながら、たくさんの写真を撮っていました。

会場正面の壁にはモスクワのモチーフが一面に描かれ、日本とロシアの友好を象徴する大きな両国の国旗が交差して飾られていました。その装飾を背景に、会のはじめからおわりまで次々と披露される、ロシア人と日本人それぞれの文化の踊りや歌、楽器演奏。まさに文化の贈りあいといった様相で、観客を飽きさせない素晴らしい構成でした。

中でも特に印象的だったのは、ロシア大使館付属学校の生徒さんたちによる歌と踊りです。ロシアの美しい民族衣装に身を包んだ子どもたちが現れた瞬間歓声が上がり、コンサートが見やすい位置へ皆我先にと殺到。ロシア語が分からない私はただその美しい歌声をうっとり聴いていましたが、合唱の歌詞の一部が日本語になっており、ロシア語が分からない日本人にもメッセージが伝わるように工夫されていました。緊張している子もいましたが、それでも一生懸命歌って踊って歓迎の気持ちを表現してくれるその様子を見て、昨年10月



ロシアの方々の作品 (生け花、友禅) 展示の一部



に文化交流で訪れたイルクーツクで、現地の子どもたちが歌と踊りでおもてなしをしてくれた時のことをふと思い出し、涙が出そうになりました。どこであっても変わらない、これがロシア流のあたたかなおもてなしなのだ——まだ小さな子もたくさんいて、これから末永く交流が続いていく日本とロシアの明るい未来を見せてもらえたような気持ちになり、大変印象深い思い出になりました。私がロシア大使館に初めて訪れたのは2016年でしたが、ずっと憧れていたロシアを人生初の一人海外旅行の行先に定めビザ申請に向かうも、なんとなく物々しい雰囲気では最初は少し怖かったのを覚えています。その時はまさか、大使館の中でこんなふうに過ごす日がくるなんて想像もしていませんでした。

交流協会の活動に携わってきたこの約10年間、料理教室やイワン・クパーラなどのイベントに参加するたびに顔見知りが増えたくさんの友人を作ることができました。そんな彼らと一緒に、彼らが普段過ごしているロシア大使館の敷地の中で、日ロ友好の志をもつ仲間たちと協会創立60周年を祝うことができ大変嬉しく思いますし、会場使用の許可のみならず素晴らしいおもてなしで惜しみなく来場者を歓待してくださったロシア大使館の皆様のご厚意に、改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。スパスィーバ・バリショイー（本当にありがとうございます）！70周年も80周年も是非またここで同じようにみんなでお祝いできるよう、これからも交流活動を楽しんでいきたいと思えます。

交流協会の活動に携わってきたこの約10年間、料理教室やイワン・クパーラなどのイベントに参加するたびに顔見知りが増えたくさんの友人を作ることができました。そんな彼らと一緒に、彼らが普段過ごしているロシア大使館の敷地の中で、日ロ友好の志をもつ仲間たちと協会創立60周年を祝うことができ大変嬉しく思いますし、会場使用の許可のみならず素晴らしいおもてなしで惜しみなく来場者を歓待してくださったロシア大使館の皆様のご厚意に、改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。スパスィーバ・バリショイー（本当にありがとうございます）！70周年も80周年も是非またここで同じようにみんなでお祝いできるよう、これからも交流活動を楽しんでいきたいと思えます。

